

斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり

国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

特別会員 ○寺内 賢哉

国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

特別会員 大西 季秋

国土交通省中国地方整備局

特別会員 長谷川 史明

1. はじめに

1997年には河川法が改正され、その目的に新たに「河川環境の整備と保全」が盛り込まれ、多自然かわづくりなどの河川生物の生息環境や、多様な河川景観等を保全・創出する取り組みが行われるようになった。生物多様性が保たれた国土を実現するために生態系ネットワークの形成という手法があり(図-1)、出雲河川事務所は斐伊川水系において大型水鳥類5種(ハクチョウ類, ガン類, ツル類, コウノトリ, トキ)を指標とした生態系ネットワーク構築に向けた取り組みを実施している。

本稿では、斐伊川水系における生態系ネットワークの取り組みとして実施した河川整備と、今後の展望について報告を行うものである。



図-1 生態系ネットワーク形成のイメージ

2. 生態系ネットワークとは

生態系ネットワークとは、貴重な自然を保全するとともに、分断化された自然を繋ぎ、生きものの移動経路の確保や、自然の働きを回復させることによって、豊かな自然を再現しようとする取り組みである。「国土のグランドデザイン 2050」¹⁾には、基本戦略のひとつとして、生態系ネットワークの更なる充実強化により生物多様性の保全と回復を図ると記載

されている。

生態系ネットワークの取り組みは、全国的に行われており、2017年1月には国土交通省が主体となり、21市町の首長からなる「水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議」を発足し、近年、円山川や四万十川などのように、流域の多様な関係者からなる地域の協議会が設立され、河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて連携して取り組みが進められている。

3. 斐伊川水系での取り組み

斐伊川では2015年4月より「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」(以降、検討会)を発足し、生態系ネットワークの形成に取り組んでいる。斐伊川における対象地域(図-2)は、斐伊川や神戸川、宍道湖、中海を含む斐伊川水系としており、2県6市2町(鳥取県、島根県、米子市、境港市、松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町)に及ぶ。

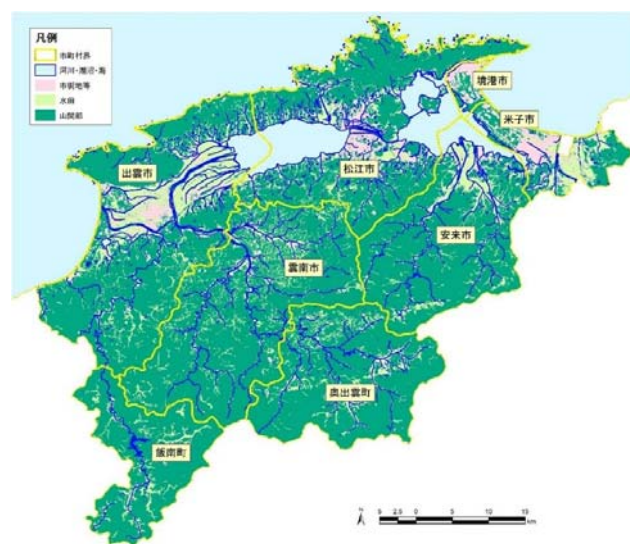


図-2 斐伊川水系生態系ネットワークの対象地域

キーワード 生態系ネットワーク, 大型水鳥類

連絡先 〒693-0023 島根県出雲市塩冶有原町5丁目1番地

TEL0853-21-1850

土砂投入を行い、浅場を整備するとともに砂嘴（さし）（沿岸流により運ばれた漂砂が堆積し形成される地形）に溝を切り、斐伊川本川の砂の流入を促した。（図-6）



図-6 斐伊川河口における整備計画イメージ

施工後、砂嘴の北側に土砂が堆積し始め、2019年には付近にコハクチョウ、ヒシクイのねぐら利用が記録されている。施工前と今年の垂直写真からも、砂嘴の周囲に水深の浅い箇所が広がっていることが確認できる。（図-7）

今後は経年の堆積状況の変化を把握するため、当該箇所においてレーザ測量を実施し、浅場造成についても継続的に実施する予定である。

5. 今後の展望

2019年2月の第6回検討会に、試験施工と同様な対策等を取りまとめた、「自然再生計画」の概要案を提示し、自然再生計画を作成する上での目標値の設定手法について方向性を示している。また、2020年2月には第7回検討会において、斐伊川水系における生態系ネットワーク形成の取組についてまとめた、「生態系ネットワーク全体構想」の案を提示し、委員から



図-7 斐伊川河口部の経年変化

の了承が得られた。今後は、全体構想を基に自然再生に資する河川の整備手法の検討、具体的な整備量や整備手法、整備箇所の優先順位等を検討していく予定である。

参考文献

- 1) 国土交通省(2014):「国土のグランドデザイン2050」, <<https://www.mlit.go.jp/common/001047113.pdf>>.
- 2) (公財)日本生態系協会(2016):斐伊川水系生態系ネットワーク調査検討業務 報告書
- 3) (公財)日本生態系協会(2017):斐伊川水系生態系ネットワーク検討業務 報告書
- 4) (公財)日本生態系協会(2018):斐伊川水系生態系ネットワーク形成検討他業務 報告書
- 5) (公財)日本生態系協会(2019):斐伊川水系生態系ネットワーク検討業務 報告書